

## マラソン部 活動報告

作成者 沼津営業所 永田

9月21日(土)名古屋ドームで行われているマラソン大会に出場致しました。

3人一組で3チームに分かれ、当社デザインのユニフォームを身にまとい

個々の力を出し切り、名古屋ドームの外周をマラソンをしました。

Aチーム	北村支店長	林所長	中村
Bチーム	橋場社長	高木雅	永田
Cチーム	田原取締役	江崎	畔柳

ドーム外周は2Kmあり、一周ごとに交代で走り、一人2Km×7周を走り

1チームで42.195Kmを完走致しました。

肉体と精神力を競うだけではなく、チーム力というものが一番重要になっていきます。

名古屋ドーム内の大スクリーンにはバトンタッチ前のランナーを確認出来ます。そこで

次のランナーが手際よくバトンタッチ出来るようにタイミングを計り、バトンタッチポイントで

待ちかまえます。時には次のランナーが体力的に難がある場合2週続けて走る人もいました。

決して走行タイムは良くありませんでしたが、ゴールに向かって走り切るのが最大の目標

であり、見事やり遂げました。

橋場社長はマラソン経験者で大ベテランなので他のランナーと比べても走るスピードが

早く、休憩中も呼吸も全く乱していない様子でした。さすがと言わんばかりの走りっぷりでした。

田原取締役はマラソンで苦しいのにもかかわらず、決して苦しい顔を見せませんでした。

さすがに右の写真は苦笑いですが、プロとしての生き様をまざまざと見せて頂きました。

仕事においても目標を持ち、それに向かって走っていかなければならない時が来ます。

苦しい時でも笑顔で行かなければいけない時があるかと思えます。

マラソンの完走は苦しいのを跳ね除けて、初めて出来るものであります。

マラソンはそれを教えてくれました。

右の写真はバトンタッチを待っている間の一休みしている光景です。

あまりくつろぎすぎてしまうとモチベーションを維持できなくなってしまうのでほどほどに

休み、談笑に花を咲かせています。

次回のマラソン大会では完走タイムに重きをおいてチーム戦し、チームで切磋琢磨して

いきます。そのためには日常から身体と心の鍛錬をし、マラソンに備えていきます。

